



定装置「Nano TR」  
薄膜熱物性測

私の実家は材木店を営んでいた。小さいころは、図面を引く父の隣で鉛筆を削ったり、青焼きを手伝ったりしていた。製材所には危なそうな機械が並び、木くずにまみれた職人さんたちが手際よく丸太から材木を切り落としていた。おがくず倉庫には、山ほどのおがくずが積み、私たち姉弟の秘密基地だった。今でもそのおがくずの匂いを思い出す。今思うと、この記憶が「ものづく

り」の原点なのかもしれない。 ■ □

大学卒業後、NECに入社し、宇宙開発部に配属されたが、当時は人工衛星も小型で、開発部と製造部が隣接し、製造部でさまざまなものが生産されていた。急に実験に必要になったものでも、図面にして製造部に持ち込めば、多少の文句を言われながら、サクサクと部品を加工してくれる。そんな工場の雰囲気が好きだった。一方で、当時はほとんどが男性エンジニアで、男の職場だったのだ。女性エンジニアという立場になかなか自信が持てない……

はたらくこと いきること

# 理工系女性の想い

日本に戻ったら「ものづくり」がしたいと思いはじめたのはそのころだ。その思いは日に日に強くなり、日本に帰国した翌年の2006年に、産業技術総合研究所でベンチャー創業に向けたタスク

を覚えている。 ■ □

その後、いろいろなことに挑戦したかった私は、出版社や芸術劇場で広報宣伝や企画・制作の仕事を経験した。海外で仕事をしてみたいと日本を飛び出した私だが、自分のアイデンティティは何かを考えさせられるとともに、バブル崩壊後の長引く不景気から日本経済が低迷していく状況を、日本の外から見て、日本の強みである「ものづくり」が衰退していくことに危機感を感じたのを覚えている。

外から見た日本に「危機感」

## モノづくり 出会いが財産

女性起業家も年々増加している。女性起業家に向けた国の支援も増え、社会の認識も徐々に変わってきたように感じる。その中で私が重要視しているのはネットワークだ。私が所属している学会IEEEのWomen In Engineering

フォーンプロジェクトを研究者とともに立ち上げ、2年後の08年に計測機器を開発・製造する「ピコサーム」を設立した。

タスクフォーンスでのプロトタイプの開発に約2年、創業後、製品化に約2年、あつという間だった。装置の機能・性能、形状、色、ロゴなど試行錯誤が続いたが、完成した時の感動は今でも忘れられない。今でも1台1台が完成するたびにうれしく、大きさに思われるかもしれないが、顧客に販売せず、手元に置いておきたい気持ちになる。

△プロフィール▽90年筑波大学第一学群自然学類卒、同年NEC入社。人工衛星の熱制御システム、無重力環境での実験装置の開発を担当。その後、出版社や芸術センターで企画・制作の仕事を経て、06年に産業技術総合研究所にてベンチャー創業のタスクフォーンプロジェクトを立ち上げ、08年にピコサームを設立、社長に就任。IEEE Women In Engineering 会長。



ピコサーム社長  
石川 佳寿子

ering (WIE)でも、テクノロジー分野で活躍する女性技術者・研究者のネットワークを構築し、未来を拓くテクノロジーを世界に発信している。その中での出会いが大きな財産であり、私の原動力にもなっている。